

大正二年二月十一日
第三種郵便物認可
(毎月曜日發行)

上海

No. 10. "THE SHANGHAI."

大正二年
四月十四日
第十號

滬上小言

勿怖劍與血

- 目次
 - 滬上小言
 - 勿怖劍與血
 - 經濟上より見たる廣西
 - 主要時事
 - 文苑
 - 勇警語
 - 雜報
 - 議會開院情勢
 - モント博士と駐支米國公使
 - 各地通信
 - 東電目録
 - 上海港船舶出入統計
 - 上海港輸出入統計
 - 郵船會社在庫品統計
 - 金融市況
 - 各種商况

般を倒せしものは周也、故に周は天下を獲たり、六國を倒せしものは秦也、故に秦は天下を獲たり、秦を倒せしものは漢也、而して晉宋を統一せしものは隋也、故に隋は天下を獲たり、唐を倒せしものは唐也、故に唐は天下を獲たり、唐を倒せしものは宋也、故に宋は天下を獲たり、宋を倒せしものは元也、故に元は天下を獲たり、元を倒せしものは明也、故に明は天下を獲たり、明を倒せしものは清也、故に清は天下を獲たり、更に之を清那以外の列國に見るも米國を獨立せしめし功はジョージワシントン其多きに居る、故に彼は米國第一次の大統領とされり、獨逸帝國を統一せしはプロシヤ也、故にプロシヤは聯那の盟主として天下に號令するを得たり、日本維新の大業を翼賛せしものは薩長土肥也、故に彼等は日本の政治界、軍事界に偉大なる勢力を振ふを得たり、此他何れの方面を見るも天下を推翻せしものが天下を掌握し天下に號令し居る事之れ時の古今を論せず、洋の東

西を問はず終始一貫したる歴史上の大事實也、蓋し神は大慈大悲にして至公至平也、費やせし努力は必ず酬へらるてふ理法の存するあれば也。

然るに我等は清朝の末代に於て此一大原則に一例外を劃すべき事實を見るに至れり、尹は支那政界の現勢也、抑も前清の稅政に憤慨し、決然として鐵火に訴へ遂に宣統皇帝をして退位の已むなきに至らしめしものは即ち革命黨員也、而して現在の國民黨は即ち當年の革命黨員の集團なるを以て、歴史上に於ける理法は、應にせよ四百年の山河に號令すべきものは應に國民黨たるべき筈也、而して國民黨の現勢奈何を見るに南京臨時政府時代ありしも未だ幾日ならずして挂冠し其光榮ある印綬を擧げて之を主義政見の相容れざる袁世凱氏に捧呈するの己むなきに至り、爾來政權と相拒する事百千里、僅に南方の一角に踞踏して又當年の意氣を見る能はざるは何ぞや之を一見甚だ不可思議なるに似て決して然らず、理窟は簡單也、要は革命時に於ける流血の分量甚だ鮮少なりしを以ての所以而已。

革命は血也、革命は肉也、革命は骨也、革命は火也、革命は鐵也、故に飽く迄血と肉と骨と火と鐵とを以て終始して革命するを得んや、又革命黨員は滿州朝廷を推翻するを以て最後の目的となし、更に四方に威を示して自黨の根底を強固ならしむる必要あるを忘れたるは一大失敗也、支那の山川由來鼻雄に富む、國家の糜爛に乗じ側面より出で、天下を橫奪せんとする奸物多きは支那歴史の常に証明する所也。

故に革命黨員は獨り清朝の推翻を以て満足せず、更に長驅して北京を衝き威を四方に加へて此等鼻雄の出現を防塵すべき事は革命黨員に取りて更に必要事たりし也、惟だ惜しむ好男兒策此處に出でず、意氣爾かく盛ならず、武漢及南京に於ける僅少なる流血に戰慄し、北方の軍容尙整たるあるに畏怖し、長江以北を成立せしめたるは即ち國民黨の委微不振、折角獲たる四百年の天下を擧げて袁世凱氏に捧呈するに至りたる所以にして觀じ來れば革命黨員の失脚が必ずしも天下爭奪の史的原則に對し、例外を劃するものにあらず也。

然れども國民黨が其委微不振の形勢より脱出し、出來得べくんば政權を把握し本來の主義政見を實行し得べき一條の血路は今や開かれんごしつ、あり、議會の開院即ち之也、民國議會は兎角の風評ありしに拘らず兎に角豫定通り四月八日を以て開院の禮を行ふに至れり、而して各黨派別の詳談は尙之を知悉し難きも只今の所國民黨が絶對多數を占むる事は事實なるが如く之れ國民黨に取りて一大強味なりと言はざるべからず、由來袁世凱氏の態度を見るに口には共和を頌しながら其行動は兎角武斷的、專制的に傾む、嫌あるのみならず彼の勸進奏呈問題或は袁氏藥籠中のものたる研究會の起草せし憲法條項が甚だしく大總統の權力を擴大し居る等に譬みれば袁氏が如何に權力に隈が居るかを察知し得べく、彼が密かに皇帝の位を希望し居るご稱せらるゝもあながち所謂無きにあらずが如し、而して袁氏の企劃者々其効を奏し、多大の實權を擧げて彼の一身に鍾むるに於ては革命黨員は何の面目に當り其陣没者に革命を得んや、此際を以て彼に三百の痛棒を喫せしめ彼の非望を粉碎するは實に國民黨員の任務にして同志結黨の意義なるご共に抑も又國民黨が今日迄嘗め來りたる屈辱より脱却し其政權に近づき

資本金 四千八百萬圓
(内拂込參千萬圓)

● 積立金 壹千八百貳拾萬圓

● 當座預金 年貳分

● 定期預金 三箇月年二分
六箇月年三分
十二箇月年四分

● 小口當座預金 月三厘

右小口當座預金ハ最初墨銀五弗以上次ヨリハ一弗以上御預り可申候
但し利息ハ預リタル月ト拂戻ス月並ニ五弗未滿ノ殘高ニハ之ヲ付セズ

本支店及出張所

臺北、臺中、臺南、基隆、嘉義、打狗、宜蘭、淡水、新竹、阿緞、花蓮港、澎湖、島、東京、大阪、神戸、香港、廣東、汕頭、厦門、福州、九江、新嘉坡

其他各所ニ取引先アリ

上海九江路

臺灣銀行

支配人 江崎真澄

營業部 (二一六五)

電話 支配人席 (二三三)

諸事精々御便宜相圖可申、御用ノ御方ハ支配人席へ御電話被成下度候

橫濱正金銀行

營業部 二七四

電話 輸入部 三〇〇七

支配人席 (三〇〇三)

得べき最後の機會也、實に國民黨勢の興廢は一に懸りて此機會を把握して逸せざるや否に在り、唯だ感むらくは此事實を最も痛切に感受し居たるは故宋教仁にして彼は實に當人の意氣を以て北平に黨員の結束に奮然とするの際に北平刺客の襲ふ所となりて上海停車場に斃れたる以來黨員間に強硬を裝ふも雖も内心の遼遠畏怖は覆ふべからざるものあり、彼等は果して手に六萬の精兵を有する袁世凱の繩張内たる北京に至り尙侃語の議論を繼續するの意氣あるや否や、我等の疑ひなき能はざる所也、然れども妥協政治ハ、フダン政治の不利なる結果を與ふるものなるは國民黨員の既に「能く、經驗せし所也、已に之を經驗せり」とせば之を議會に於て再びするの思は斷じて學ぶべからず、敢て告ぐ國民黨の諸子、諸子は今や猛進して起つべきの時也、起つて而して侃語の黨論を繼續すべきの時也、由來建國の事業は高價なる報酬を要求す劍と血とを怖るものは須らく去つて田圃を打つべし、誓つて天下を論ずる勿れ我等は國民黨の興廢に對し何等の痛痒を感ずるゝのみにあらず、雖も唯だ自己の經費に於て袁氏を利せんとする同黨の意氣地なきを憐み取て一片の姿を呈せんとするのみ重ねて諸子に激す、劍と血とを怖るものは去つて田圃を打つべし、誓つて天下を論ずる勿れ。

滬上の客商

云ふ迄もなく上海は東洋唯一の互市場で内外商人の勢力地であるが、支那側から云へば各省から集まつた所謂客商(客商)の勢力地である、故に客商と上海は重要な關係になつて居る、此重要な關係を茲に叙するのは決して無用の業でない、が既に滬上で實際貿易に従事して居るもの、眼から見れば、此記事は孔子の門前孝

經を賣るの類かも知れぬ、ソは免も角として専ら上海の事情を明かにせぬ人に向つて書く積りであるから、豫め御承知を願ふ次第である、
▲寧波幫 甯波の地は遠く十六世紀頃から葡萄牙人と接觸して貿易を行つた處であるから外國貿易には古い歴史と經驗がある、所が時勢は地勢を變ずるものゝ上海が通商口岸として開かれてからの寧波は、丁度日本に於ける長崎と門司の關係の如く、寧波の繁榮は遂に上海に奪はれる様になつて、是迄外國貿易に與かつた寧波幫は悉く移つて上海を根據地とするところになつたので上海に於ける輸入業者として而かも優等の位置を占めて居るのは大抵寧波幫の手に歸して居る、尙ほ銀行、錢莊、藥材、海産物等の商業にも大勢力を占め、此外外國商店の買辦、這幫になつて居るものも非常に多數である又た勞働者側から云つても寧波人の勢力は大したもので各工場、各ドック等に雇はれて居る職工、船頭、船員の如き、何れも澤山な數である、斯様な關係からして上海に於ける客商中一番多く一番勢力を得て居るものを目指せば先づ寧波人と云はねばならぬ、即ち劉坤一が兩江總督であつた時の事である、寧波人は佛租界に在る四明公所の移轉問題につき強く反対したもから佛國も遂に之を強めることが出来ず、同公所は依然として今尙ほ佛租界中に存在して居る、這是確かに寧波幫勢力の侮るべからざるを證するものであらふ、

廣東幫

廣東人と外國人との貿易は最も早く開始せられたものであるから、廣東人は外國の風俗習慣も能く知つて居るのみならず、出稼人の多い處で外國及南洋各地との連絡も巧く取れて居る、だから單に外國に向つて云へば寧波人は到底廣東人には及ばない方である、而し

て廣東は支那の南端に位して支那十八省の吞吐港たる状態で、所謂洋貨難貨なる看板の文字が示す如く盛んに外國貨物を輸入するのみならず、安く模造品を製造し支那内地に賣捌いたものであらう、云は十八省の富を廣東に集めた姿である、從つて各地に於ける廣東の勢力は侮るべからざるもの上海の如き殊に然かりで、寧波人の次ぎは廣東人に指を屈せねばならぬ、廣東も亦た外國商店の買辦、通辦たるものが多く而して各工場、各ドックの職工船員、船大工になつて居るものも殊に多く技術の點に於ては遙かに寧波人より優れて居るのである、要するに廣東も寧波も共に地勢上外國に早やく接觸し商業上の地位を得るに至つたのは當然であるが職業の點に於ても大体違はない唯だ寧波と上海は眼と鼻の間であり廣東の如く偏在して居ない廣東人は寧波人の非常の多に上海にある廣東人は寧波人の四分の三に過ぎまいと豫想せらる、

紹興幫

上海にある支那人の金融機關は錢莊である事は云はすもがなであるが、其錢莊業は殆んど紹興帮のもの許りと云つても好い程であるから紹興帮の上海金融界に於ける勢力は想像に尙ほ餘ある次第である、それから紹興の地は日本でも灘の酒とでも云ふ様な有名な紹興酒の出る處であるから此商業も亦た紹興帮の獨占事業である此外平水茶の販賣や紺屋事業なども大概同帮の經營になる有様である、そこで紹興帮は先づ廣東寧波兩幫に次ぎ勢力があることは疑ふべからざる事實である、一体紹興人は頭が余程法理的の出來て居るに見て清朝時代の各役所に從事して居たものは大抵紹興人だと云はれて居るから錢莊業を獨占することになつたのも怪むに足らぬ譯である、而して商業上には進取的氣象に富むものと

見へ支那の謔に、鑽天龍遊、徧地徽州、紹興人走在前頭、と云ふ語があるに視て紹興人の各地に生を營むものが如何に多きかを窺ふことが出来る次第である、
▲山西幫 云ふ迄もない山西票莊(爲替業)は支那一般に勢力を及ぼして居るから上海に於ても爲替事業は少數の紹興帮によりて開かれて居る票莊を除けば全然山西帮の獨占になつて居る尙ほ山西帮は絲業、皮革業にも大分勢力がある要するに山西幫は人数に於ては多きものゝが金融機關の樞軸を握るといふ點に於て實に經濟界に大關係を有する客商と云はねばならぬ、
▲蘇杭幫 (南京幫之も含む) 絹絲商組織物商は杭州蘇州幫になつて居る、然しなから此商業をするものは嚴格に云へば紹興人が多くこの事である、一体蘇杭州は膽小豆の如く余り蘇杭の地を離れて商賈するものは少ないこの事である純粹の蘇杭ツ子は着倒れの評判で左の俗語は能く蘇杭ツ子の性質を現はして居る、
 一把葱、花旗、裏頭空、衣服整齊、飲食美、十家倒有九家窮、
▲無錫幫 多く繭商であるが中には鐵商もあれば米商(常州幫之も含む)もある、
▲徽州幫 紹興帮の處で述べた通り徽州人は所謂徧地徽州の語に違はず支那各地に入る處に生を營み上海に於ても茶商と質屋業は彼等の勢力範圍になつて居る故李鴻章の如き大政治家も流石安徽人丈けに安徽南京地方では質屋を經營し質屋の親方と仰がれて居つたのにも見ても質屋に徽州人多きを證する事が出来る、
▲江西幫 江西は景德鎮焼て有名な處であるから其磁器の商賈は皆江西帮がやつて居る、而して紙商夏布商も亦彼等の勢力範圍である、
▲漢口幫 中原の雜穀商は同帮の手

日清汽船株式會社

- 一本店 東京市麴町區有樂町一丁目一番地
- 一支店 上海黃浦灘路五號 漢口英租界
- 出張所 各主要地にあり
- 一代理店
- 一航路及定期回数
 - 上海漢口線 每週四回
 - 漢口宜昌線 一ヶ月六回
 - 漢口湘潭線 一週貳回
 - 漢口常德線 一週一回

○本店 東京市銀座通 二丁目七番地

○支店 上海九江路 第拾七號 第拾八號

株式會社 **大倉組** 支店 上海

電話 二八〇六 二八八六

○支店及出張所 大阪、橫濱、橫須賀、神戸、吳、門司、佐世保、舞鶴、沼津、京城、臺北、臺中、打狗、天津、漢口、上海、大連、北京、倫敦、紐育、漢堡、濠洲

にて行はれて居る又字麻、牛皮なども同じく漢口那の扱ふ所である、

▲四川那 由來四川の地は藥材と白蠟の生産を以て名を天下に馳せて居る丈此等の商業は皆彼等の獨占になつて居る

▲山東那 多く豆油、山東絹綢麥稈眞田商賣を行つて居る、

▲建汀那 福建建寧汀州の客商を指すものである、此地は棺材に適する杉を以て有名であつて、同那は大概此等の木材を取扱つて居る、又た福建煙草の商賣も彼等の營む所である、

以上列挙の如き上海に於ける各省客商の状態が略ぼ窺はれる譯であるが、同時に彼等は各省の特産物を取扱ひ且つ各省人の特質をも知ることが出来るのである彼等は會館や公所に附屬して居る譯でもなく、單に各省から出張して來て居るものも多く客棧(支那宿)に寄宿して賣込買込をやつて居る、尤も川那の如き遠隔のものは殆んど半永住的に家を構へ毎年一度位郷里に歸る様な仕組になつて居るとの事である

然るに此客商に就き留意すべきは外でもない、即ち今度日清、怡和、太古、招商局の四社が協定した運賃引上げに對し旅滬客商同盟して抗議を申込み此目的を達せんば別に新汽船會社を設立せんとの動議が起つて居ることである、聞けば客商の此同盟は今迄な現象だうであるから頗る厄介な問題と云はねばならぬ、が利權回收や排外の思想から割出したものでなく損得の問題であることは事實の様である、我等は世既に定評ある支那人の企業能力として新公司設立の如きものは金を砂を煮して飯を煮るが如きものでは断然あるまいかと思つて居る、何れにしても客商の實際に現在在實業者に取りて忽格にすべからざる研究事項であると思ひ、

茲に提供した次第である

經濟上より

見たる廣西

廣西は支那の西部に位する一省にして面積七万七千二百二十方哩、人口五百四十萬を有す。首府桂林は省中最大の都市にして桂江に沿ひ人口八萬あり。又商業中心市場は梧州とす、府城所在地にして居民六万五千、西江に臨み廣東省界に隣接す。其他商工業都市として數ふべきものは南甯府、梧州府、龍州府、百色廳あり。省内地勢山岳に富みこれを貫流する諸河(西江及同支流たる鬱江、柳江、桂江)は灌溉の用に利用せらるゝ、事殆んどなし。

(一) 鑛業、農業、及製造業

廣西省は其位置邊陲に位せりと、省内の交通困難なることより富源開發上に一大障礙を與へ居る也。省内金、銀、アンチモニーの鑛産多し就中炭山は鑛産中の鑛山として一般に認めらるゝ所也。數年前より品質佳良の石炭の土法にて採掘せらるゝあり、一九〇九年には一部を廣東市場に輸送せり。楓、黑檀、錫亞樹其他の材木林は従來より手入せられ、今は住民收入の主要財源と爲るに至れり。

農業も各閭閻間及東南南部の低地にては有利に經營せられを見る。天産中主要なるものにはアンシード、樟腦、米、豆類、藍、砂糖、オリブ、甘藷、落花生、棉花、竹、木材、檳榔膏、桂樹、王蜀黍、菓實、生絲等あり。阿片は従來栽培廣からず。家禽、猪、牛の輸出は年々著しく増加しつゝあり。

廣西省には製造工業の重要視すべきものもあるなし。絹織物業は曾て相當に行はれしも其後漸次減小して今は云ふに足らず。現今一般に工業と目せらるゝは

爆竹、火花、線香、鐵器、陶器、鞣皮革等の製造及種々の原料に對する半加工にすぎず。

斯く工業不振の情況なるを以て省内人民は大多數の重要商品に關しては其供給を外國に仰がざるべからず試みに此等品目を列擧すれば次の如し。

綿織物、綿糸、毛織物、綿毛混織物、絹物、原棉、金屬類、石炭、紙張烟草、アリン染料、エナメル、器物、麥粉、人参、窓硝子、靴下類、ランプ及ランプ付属品、鑄寸、煉乳、釘、燈油、ゴム、靴石鹼、洋傘及傘材料、明琴、沙器、アンペラ、藥種、木材、

(二) 三開港場の外國貿易

本省の三開港場に於ける一九〇九年海關經由の貿易總額は次表の如し、但し金銀の輸出入額はこれを扣除したるもの也

港名	輸入	輸出	合計
龍州	三、六五五	七、四四五	一、一〇〇
南甯	一、六五五	一、五七三	三、二二八
梧州	五、九五四	二、九三三	八、八八七
總計	七、五八三	一、九四二	九、五二五

上表表示所の價格は全部廣西省物産にして輸出せられたる價格又は全部省内にて消費せられたる輸入價格にあらずして、附近各地に於て製造せられたる土貨にして上記開港より輸出せられたるもの多額を包含し、又廣東、貴州、湖南、雲南の諸省に再輸出するために輸入せられたる額をも包含するもの也。一九〇九年上記諸省に再輸出せられたる外國品の輸入價格は次の如し。

貴州	二、四二一、〇六一
雲南	一、三三三、七〇四
廣東	一、二二二、八七二
湖南	九〇九
合計	二、七七一、一五六

(甲) 龍州の通商

▲河用モーター、ボート

龍州は上記廣西三港中最小のものにして、左江に沿ひ、省の南端に位し、人口一万二千あり。開港せられたるは今より二十年前にして、將來重要にいたるべし一時預言願望せられたることありき。

然るに鐵道を敷設して龍州と東京及南甯府とを連絡せんとする望の放棄せられし結果此の預言は實現する能はざりき。一九〇九年度に於ける龍州の外國貿易額は僅に十九万八千七百八十八弗にして全部東京よりの輸出入に係り、ラングン、ザトチ、カオパンの各地を經由せり。以上三所は佛領にして龍州と直接取引關係あり而も該通商は實際上支那人の制御する所たる也。

龍州一帯の地は灌溉良好にして比較的産物に富む。玉蜀黍、米は到る處産出せざるなく、砂糖、甘藷、豆、藍、落花生アンシード、樟腦、其産額前者に比して少きも尙各地を通じて産出するを見る。本埠及附近一帯共に鑛山の云ふべき、製造工業の見るべきなし。

交通機關の不備は、過去に於て同地方通商上の一大障礙たりし所に於て今尙同地方の發達を妨害すること少なからず南甯、梧州及廣東各埠との直接取引に對する交通機關としては僅かに左江あるのみ。而して東京との間には左江に注ぐ二支流のあるのみ。其他各地との取引に於ては全然擔夫に待つの外なかるべく、一九〇九年邊疆貿易に従事せし此等擔夫の數は實に二千六百七十四人に達せり。

左江各支流は南北に貫流し通商上の一助たるものなり。龍州に至る左江航路は淺吃水の船舶が一定時間航路をなし得るのみ。南甯との間にモーター、ボート航行の設備をなさんとし久しく世人に考慮せられたる所にして此計畫は實現せらるゝにいたるものと思惟せらるゝは冬期

東京海上保險會社
明治火災保險會社
日本火災保險會社
共同火災保險會社
東京火災保險會社

上海四川路
三井洋行
代理店
文路第壹號
山 口 商 店
申込所
(電話一八一七)

日本上海運送火災保險株式會社
資本金 三百萬圓

上海支店
諸積立金 貳百參拾萬圓
上海租界第九號
(電話一三五六)

水量枯涸死せる時を除きては殆んど全年を通じて吃水浅き船舶又はランチは航行を持続し得べければ也。然れども事實はこれに反し未だ何等斯る設置の着手せらるゝあるなく龍州の通商は依然不振の状態にある也。一九〇七年南甯の開港状態すべしと預期せられたり。然り而して南甯の開港がもし龍州に影響したるものとせば、うは却て龍州を不振ならしむべく影響せしなり。

▲モーターカ設置の計畫

凡う通商は鐵道の設置なき不可能のものにあらざるは、龍州年々の輸出入格が一九〇〇年以來殆んど三倍せられたるの事實を以て之を証することを得べし。然れども亦同時に龍州の通商、否全省の通商に鐵道の興ふる効果の偉大なるは明なる所なり。近時龍州、南甯(安南より來る鐵道の終點)間にモーター、カ、の設置をなさんと提議する者あり、思ふべしは全く實行不可能のものにあらざるべし。該運輸の開通は、目下龍州南甯間の交通に一大勢力を有するランチの經營上由々しき大事たらざるべからず。尙若し該鐵道(モーター、カ)にして愈々龍州まで延長せらるゝに至らば龍州通商の妨害となり又これに制限を加へし運輸機關を除破しうべし。小計畫中の運種機となすべく、重量貨物、大量貨物は尙水運によるべし。現有の道路に相當の手工をなせば上記モーター、カを通行せしめらるゝにいたらん、さは云へ此提議が果して龍州人士に熟考せらるゝや否尙疑問の存する所也。

一九〇五年より一九〇九年に至る五個年間の龍州の對外貿易の大勢を見るに輸入に於ては何等着しき増加を示さざるも(一九〇九年の輸入額は二二〇、六五三弗なり)輸出の増加は着しきものあり(一九〇九年の輸出額は七七四、二五弗なり)本埠の通商は輸出と共に實際上東京、京都、上海に屬し、輸入貨物の大半は東産綿糸にして、一大市場を開きつつあり右東京綿糸の始めに龍州に輸入せられたりは一九〇三年の事にして其輸入額は二三、八六七封度に過ぎざりしも一九〇九年には一六五、七三三封度に増加せり。同綿糸は品質卓絶なるを、消費市場との巨接近さにより印度糸、日本糸等の競争權を壓制輸入中の地位にあるなり。目下雲南のへ輸入品中重要な地位を占め居る外國製洋傘も亦一九〇一年初めに龍州に販路を見出せしなり。

▲交通容易ならず

南甯は一九〇七年開港せられし所に於て鬱江の左岸に臨み、右江と左江との會合點に在り。梧州の上流三六八哩、龍州の下流二五〇哩の地に位置す。府城所在地にして(革命後省城を桂林より此の地に移す)人口二萬五千廣西省三開港中第二位にするもの也。南甯市街は鬱江急曲して形成する廣漠豊饒なる平野の中心に在り、増水期間のみ普通の河用ランチによりて航行することを得。市民の大半は城外に居住し、殆んど一切の商取引亦此處に於て行はる。外國居留地も亦城外に建設せられを見る。當地地期間は三十年にして居留地の事務は市政委員之を管理す。南甯通商貿易の發展上一大障礙となすは、航河の困難にして二十二の急灘あるに加へ南甯梧州間河底到處岩石の散在するあり。されば河流に大改良を施すにあらざれば總て外洋汽船による通商は梧州を以て限りとせざるべからず。南甯に入る二鐵道の計畫せられたるも其後の消息に接せず。

A 南甯の工業

▲西江流域に於ける進歩
南甯の製造工業には一定の制限あり且つ未だ重きをなすものなし。主要製産品は單に爆竹あるのみにして一個年平均産出格約二四〇、〇〇〇弗なり。本埠の貿易は專ら支那各港殊に梧州との通商にして外國との直接取引に係らず。南甯に本埠一帶の支那商人直接取引を行ふべき外國商館の代理店設立せらるゝの時は梧州、廣東、香港等の仲介格紋を驅逐するにいたるべく、又蓋し本埠通商の増加を致すべきは當然なり。

B 南甯の通商

▲健全の狀態にあり
過去數年間に於ける内地產阿片の取引の大減少は本埠通商上に一大影響を來せり。從來南甯は雲南、貴州產阿片并に外國品の取引中心市場にして年々八千箱の貨物賣せられたりと云ふ。然るに阿片取引は廣西省に於ては該貨物に對する課税の増加せられたりため大部南甯より他地方に仕向けられたりたり更に又從來阿片の栽培せられたる地方も道德上の見解より粟業の培植を禁止せらるゝに至りため大に減退せり。然りと雖も一九〇八年、一九〇九年乃至一九一〇年前半期の取引高より察する時は本埠の通商は健全なる狀態に在るものにして將來發達の望あるものと云ひうべし。尤も該年度の南甯は其他廣西の各地と等しき比較度の賑ひし年なり。綿布市場も其需用漸次増加の趨勢にあり、もし一九一〇全一年の取引高にして示さるゝに至らば當市場に於ける輸入は決して減退しつゝあるものにあらず。

日本郵船株式會社

京 東 本 日 社 本

噸 萬 二 十 三 數 噸 總 ● 隻 餘 十 八 船 汽 有 所

上海出帆
歐洲行 二週一回
米國行 二週一回
香港行 二週一回
日本行 一週二回以上

其他日本各港濠洲印度
朝鮮支那等諸航路有り
日本郵船會社
上海支店長
石井 徹

南滿洲鐵道會社
大北汽船會社
大北鐵道會社
店理代

● 煤 ● 製 ● 電 ● 棉 ● 布 ● 湖 ● 北 ● 水 ● 泥

炭 紙 銅 花 紗 正

上海四川路五五

三 菱 公 司 上 海 支 店

(電 話 一 九 二 〇 九 六 四)

事を証すべし。然るに綿糸は一九〇九年
一九〇一年に至りて着しき衰頽を見たり
一九〇九年には内地手織木綿殊に廣東産
のもの及び綿毛混織物の來荷増加し尤も
一九一〇年前半期中に右は全く其姿を失
せり毛織物之前年に反し一九〇九年には
前年度より需用減少なり。毛布類并にス
パーニッシュ、ストライプの二者は一九
〇九年度の取引高前年に比して多きもカ
ツシユル織は一九一〇年の取引高一九
〇九年のものよりも多し。絹織物にいた
りては年々其輸入額増加しをれり。

南寧の輸出入

内外製金屬類は幾分か進歩を示し外國
雜貨も亦幾分發達をせり云ふ事をう
べし。外國製藥種、煉乳、紙卷烟、草紙、ズ
ボン、短靴下、糧食、洋傘并に洋傘材料等
すべて一九〇九年より發達し來り一九一
〇年に入り需用の基礎確立せられたり。
亞來利加產石油は一九〇八年には八八、
七〇ガロンとなり一九〇九年には二
一一、七五〇ガロンとなり一九一〇年前
半期間には一一四、六九五、ガロンとなれ
るに反し唯一の競争者たるスマトラ產石
油の輸入は次の如き狀況なり

一九〇八年	一五、九〇〇ガロン
一九〇九年	二七、六〇〇ガロン

更に比較的重要なる輸出品につきて見
るに一九〇八年一九〇九年及一九一〇年
前半期に於ては夫々輸出増加を示せり尤
もスター、アンニードは例外にして歐洲
市場に於ける需用十分ならざりし爲め一
九〇九年には著しく減退せり然れども一
九〇九年に入りては大部回復したり、ア
ニ油は一九〇八年には七一、二〇〇封度
なりしも一九〇九年には一四三、六〇〇
封度に増加し一九一〇年六月三十日迄に
は再び三二、五三三封度に減退せり豆は
一九〇九年は前年に比し六〇〇〇〇〇

〇封度以上の増加あり而して一九一〇年
前半期中に船積せる格は一九〇九年に於
ける船積格の三分の二以上に達せり樟腦
は一九〇九年より減少の有様にして、一
九一〇年前半期には全く其姿を没せり一
葉煙草は一九〇九年には減退せしも一九
一〇年前半期の輸出額は從前の何れもの年
の輸出總格よりも遙かに大なるは記録の
示す所なり。爆竹并に火花の減少せるは
廣東に於ける同種製品の競争増加し來る
に依るものとす。

年次 輸入格 輸出格 合計

一九〇七	六八、三三三	七〇、七五七	一三九、〇九〇
一九〇八	一三三、六三二	八九、八五〇	二二三、四八二
一九〇九	一四二、六五五	一五、七三三	一五八、三八八
一九一〇	一四二、六五五	一五、七三三	一五八、三八八

(丙)梧州の外國貿易

梧州は廣西第一の開港場たると同時に
其商業中心市場たる也。實に其位置は廣
西の廣東香港との全商取引を支配するの
有様なり。但是が例外として東京灣の北
海より輸入し來るものなきにあらざるも
其額少し。本埠は人口六方五千外に二十
余人の外人居住す。從來外國商館の本埠
に設立せらるるもの微々其數多からざり
しが商業は今尚、廣東香港等に本店を
有し廣東佛山三水各地の大商人及銀行と
取引干係を有する廣東商人の手中に在る
也。

されば吾人の容易に想像しうるが如く
本埠は外國との直接取引なく其商業は全
く廣東香港との間に屬し外に南寧、龍
州との取引あるも其高極まり少し。梧州
商人は店員を内地に派し輸入貨物の賣捌
をなさしむると同時に内地産物の買出を
なさしめ(實際)上物々交換多きが如し斯

くして買集めたる貨物は通過証書を閉し
て梧州に送り其上香港に輸出す。
梧州の商業勢力範圍は廣西の大部より
雲南貴州にまで及ぶ。是等各省の全面積
は約二九、一、二〇〇方哩にして人口約二
五、〇〇〇、〇〇〇あり。其半は貨物の供
給を梧州に仰ぐもの也。

A 課税・運輸機關の不備

梧州の通商は今尙課税の重き(然れ
ども従前未だ條約規定なき時代にて然れ
るが如き重きものにはあらず)通貨の情況
が、地方富の程度低きと、内地の不穩
定及び内地各方面との交通機關完全せざ
ることによりて妨害をうけつゝあり。西江
による内河交通は來だ十分ならずと雖も
梧州がこれに浴する恩恵は全く二百五十
哩を距つる廣東其他西江デルタと同じく
容易安然にして而も本埠商業の必要には
十分なり。

廣西、貴州及雲南の一部中梧州より貨
物の供給をうくる地方は何れも鐵道の便
なし。廣西省内鐵道會社の存在は、外國

資金が國省内鐵道敷設のため使用せられ
んとする提議ある毎に世人の頭に浮び來
るにすぎずして今日この所にては夫れ以上
何等事業をなしたるなし廣西に入る三鐵
道は會て郵傳部によりて計畫せられし所
なるも單に計畫せられしのみにて計畫
以上の進歩を見ず。

B 鑛業は未だ發達せず

炭山は本埠附近に採掘せられざるもの
あるも其の採掘法たる舊式にして產出多
からず。品質は先づ中等のものにして主
に暖用に用ふる。河用汽船は輸入炭
主に日本炭の供給をう。更に内地には
これに比し品質上等のもの時々發見せら
る事あるも其產出小格にして商品として
取扱はるるにいたらず。錫鑛は本省各地
に發見せられ、產出地に於て土人は小仕
掛にてこれが吹分をなす又產出地に於て
鑛し精製品は錫箔として輸出のため梧州
に積出せる。數年前香港市場に於けるア
ンチモニーの價額騰貴せし結果本省官吏
をして梧州に鑛鑛所を開設せしむるにい
たりしが其後間もなく支拂ありて鑛鑛所
は作業を中止し爾來活動せず。

今より三年前廣東富豪の組織する資本
金二〇〇〇〇〇〇弗の一會社は貴縣近
くの天平山鑛山採掘權を許せられたり
同鑛山は米國にて教育をうけたる一支那
鑛山技師によりて精査せられしが其報告
によれば彼が調査せし地方には二十余々
の鑛脈あり右何れも鑛石百封につき平均
十封の銀を精練することを得べく、之に
加ふるに金銅、鉛、も多少存在す。且に
是等採掘權を採掘し、同鑛山と貴縣との
間に輕便電氣鐵道を敷設し尙梧州及香港
に航行すべき二隻の定期船を準備せんと
意氣込をれり。(完)

濟生堂大藥房

胃腸肺病救世丸
原因療法
濟生堂大藥房
上海虹口四華德路文路角
電話 一 二 五 六

神經痛
神經痛
濟生堂大藥房
上海虹口四華德路文路角
電話 一 二 五 六

貧血症
神經衰弱
濟生堂大藥房
上海虹口四華德路文路角
電話 一 二 五 六

滋養
強壯劑
濟生堂大藥房
上海虹口四華德路文路角
電話 一 二 五 六

婦人諸症
原因療法
壯婦丸
濟生堂大藥房
上海虹口四華德路文路角
電話 一 二 五 六

消化
新劑
濟生堂大藥房
上海虹口四華德路文路角
電話 一 二 五 六

濟生堂大藥房

●海清鐵道の實狀

本鐵道は所謂海關鐵道幹線の一にして、目下主權問題に關し紛争を極め居れる清楊鐵道(清江浦、楊莊間)はその一部開通線なり、本線は清朝時代三百萬元の資本を以て蘇省鐵路公司の承辦する所なりしが、民國政府は之を國有と爲し海關鐵道に歸併したり、今本鐵道の梗概を記せば左の如し

▲本鐵道沿線の地勢 各區に分ちて記述すれば

(一)清江浦より北して南六塘河に至る十四哩間は地勢平坦にて高山大川なし、此の區間は土工、橋梁等の工事の大なるものなし

(二)南六塘河より北六塘河に至る十四哩間は地勢や、低く、光緒三十二年の洪水の際には地上三尺餘も漲溢せし地方なり故に線路は平均七尺を築き上げざる可らず

(三)北六塘河より土溝河に至る八哩間は土坪、土堤ありて水患の憂少なし、前區に比して工事易し

(四)土溝河より大伊山に至る九哩間は光緒三十二年の洪水の際には地上水深五尺餘もありしと云ふ程土地低き地方なれば線路は八尺位も築き上げざる可らず、且つ線路の下部は四尺位廣くし石垣を築き草木を挿みて洪水の爲めにも破壊されぬ様爲すべし、全線にて最難工事の區間也

(五)大伊山より板浦に至る十二哩の間は先年の洪水の時地上の漲水は二尺位なりき、故に線路は六尺位築き上げざる可らず

(六)板浦より新浦(海州)に至る十七哩間は、地勢稍や高く水路の妨礙すべきものなし、工事は至つて容易なり

全線を通觀するに低處多し高處少し故に將來水患なきを期し難ければ、工事に着手の時水の流通口を設け置かざる可らず即ち壩を設け置くの必要あり、而し壩は次の大所に設くるを至當とす

南六塘河、北塘河、泥濘河、六里河、東西門河、牛渡河

可らず即ち壩を設け置くの必要あり、而し壩は次の大所に設くるを至當とす

南六塘河、北塘河、泥濘河、六里河、東西門河、牛渡河

以上の六壩附近に於ける平時東西水面の差異は二尺餘なるも夏秋の大水時は差異六尺に達す、海州附近を流通する鹽河流域は河底の高下殆ど無く、水流遲緩なる以上前記六壩ありて上流の水を防ぎし故に洪水時に多くの漲水を見たるなり

故に六壩を開かば上流の水を流通するに都合よければ決して漲溢する事なかるべし

▲本線工事の狀況は主要次の如し

(一)全線百餘哩にて地勢抵蕪なれば工事は容易なり、橋梁は南北六塘河、大澗河、小澗河、漢陽河なるも百尺以上のもの殆どなし

(二)全線の停車場は次の十ヶ處なり

清江浦、西壩、大興莊、梁家又、高家溝、北草溝、大伊山、中正、大平新浦(海州)

以上各項に就いて概算するに毎哩約一萬八千餘元を要し外に軌道、枕木、バラスト車輛及其他の雜費を加ふれば又八千餘元を要し毎哩平均二萬六千餘元を要し全線にて約四百萬元を要する譯なり

▲本鐵道利益の予想 支那専門技師は本鐵道の利益を次の如く預定せり、一、鹽引 毎年の出廻り四百萬包とし每包の運賃を一角とすれば四十萬元となる

一、油料 毎年の出廻り五十萬件とし、每件運賃を八分とすれば四萬元となる

一、大豆 毎年の出廻り十萬担と預定し、每担の運賃を一角とすれば一萬元となる

一、小麦 毎年二十萬担の出廻りとし、每担の運賃を一角とすれば三萬元となる

一、雜糧雜貨 毎年五十萬担の貨物ありとし、每担を一角とすれば五萬元なり

一、鹽用蒲包 毎年二十五萬捆の出廻りとし、每捆を一角の運賃とすれば二萬五千元なり

一、乘車券 毎月一萬二千元とすれば毎年十四萬四千元を得

以上の予想利益を通計すれば毎年の收入は實に七十萬九千元を得る譯なり

六三圖紀遊 吳岳盧昌頌

六三卦之交。園名取乎易。白石洵有學。功大見開闢。櫻花方盛開。似春色加澤。

越女天下白。韓句頌可摘。面而入丘墓。行徑石深碧。梳溝澗洪渠。沸水穿石磧。

鶴與鳥驚遊。聲價何彫格。中有蛟龍潛。雷雨乘其隙。世界大荒唐。劃一令誰責。

此語痛噴書。非井開田腔。歷歷皆木石。老佛若作衣。低眉已成癖。坐視大劫臨。

不度一切厄。捫心悟佛法。毘那異劍戟。聖瑞與道鄰。星宿上天譴。倚醉深長吁。

消渴飲靈液。春風園園林。且著老坡履。兩山先生及同社詩君子約游園亭致我病不果往依韻例賦試此詩即回亭致我

我年政七十。兩見癸丑春。兒時慕蘭亭。老復逢嘉辰。緜昔永和年。會者則二人。

製序推逸少。奮筆如有神。讓事久不作。向水鳴榔榔。地固以人重。巖壑全其神。

坐憶蘭亭數駢駢。東友招遊蘭亭喜開印社結鷗盟。已慚逸少工爲敘。但恐延之不署名。

蘭亭會者四十二人何延之蘭亭記述古近過寒食節又釋文選則在四十二人外他感時誰賦麗人行。吾衰濟勝嗟無術。來對湖山飲巨觥。

▲承認問題と輿論

▲時報 列強が承認を運命は國體を易へしのみ、列強が承認を運命は國體を易へし若し故意に承認をなすは吾の與し易きを難し其僥倖の野心を逞するのみ幸にして米國は義に依りて執言す列強も公義に屈せざるを得ず然れども我を謀るの心須臾も之を弛ふせんや、吾苟も自強ならざれば列國の承認は書畫に歸し米人をして德の卒らざるを慚しめん、故に今より自ら喜ぶ勿れ列強は承認の後一意吾の保全して侵略の念を存せざるが列強の前情に對する友邦との國交を爲せるに一面上に於ては意食鯨吞を試み居たり、承認實行に乘じて吾存存の列に加はるに過ぎず利に乘じて吾を苦むるは曩日に異らざるべし、若し吾存の道を講せざれば列強は吾を待つに前清と異らざらん他日承認を得るも吾國民は依然として満足する勿れ

▲民立報 國の元氣は民に在り民苟くも秩序整齊の精神を失はざれば強流あるも安渡すべく好進の萌も公意に棄却せらるべし要は國民が宋氏の遭難の如きに對して乎然として能く共和を保持するの能力有無の如何にあり、故に國民に對して能く之を判別せば共和政體の根本は變動せざるなり、承認問題の主唱實行は吾人の美感に觸る然れども苟くも承認者の内情を察別する事周密ならざれば中米の感情敦美なるも米人は必ず劣友に出でざるべし故に承認の實行は主權的に國體を察別するにあり、吾人は諸友邦が米國に繼て起ち吾民を助めん事を期するものなり

▲民報 近時承認の聲浪しきも之を事實に見る事能はず最近米國は吾國會開設を俟ちて承認せんとす米國の說あり其他の各國が紛議躊躇せるは其鯨吞蠶食の謀を遂げんとするなり、先日のカーター電報に

●禹聲滬語

▲承認問題と輿論

▲時報

▲民立報

▲民報

法界呂班路三三三

純牛

良乳

愛光社

電話貳壹七五番

虹口吳淞路

宮本商店

虹口市場前

松本商店

次號豫告

本紙は發刊以來非常なる好評を博し當地を始め日本及び支那各地に多くの讀者を得たり、第十號は來る廿一日發行す購讀申込所

上海虹口文路

上海虹口文路

節柄面白ければ左に之を轉載す
 ▲總理徐世昌▲外交劉式訓▲內務王廣
 ▲陸軍段祺瑞▲海軍劉冠雄▲財政周自齊
 ▲交通梁士詒▲司法梁啟超▲工商楊士琦
 ▲農林孫毓筠▲教育潘化龍
 各省都督
 直隸 馮國璋 劉若曾
 山東 靳雲鵬 袁乃寬
 河南 陸建章 王印川
 安徽 倪嗣沖 蔡乃煌
 廣東 王和順 蔡芳嶺
 福建 張廣建 林萬里
 浙江 蔣尊簋 朱家寶
 江蘇 張勳 盛宣懷
 江西 余鶴松 李盛鐸
 甘肅 何宗蓮 田駿豐
 新疆 傅良佐 王治馨
 奉天 張錫鑾 廣福
 山西 張紹曾 梁善濟
 陝西 趙倜 丁乃揚
 湖北 張彪 田文烈
 湖南 袁樹勳 周大烈
 雲南 唐繼堯 熊范輿
 貴州 劉顯世 熊慶益
 四川 李華 蒲殿俊
 廣西 張鳴岐 胡銘濤
 吉林 孟恩遠 陳昭常
 黑龍江 曹錕 宋小濂

此外總統府內の人物なるものを擧ぐれば
 ▲秘書長 楊度 ▲參謀總長 陳宦
 ▲樞密總長 段芝泉 ▲京師警總監 程克
 ▲武昌の不穩 ▲黎氏 武昌は近時
 何さなく形勢不穩の状態にありしが黎元
 洪氏は容赦なく其煽動者を死刑に處し爲
 めに此數日間にしてのみに死刑に處せら
 れたるものは二名の將校を合して其數三十
 餘名に達せりといふ、而して黎氏は又一
 片の告示を出し、秘密結社を結びあるも
 のは之を解散し、己に罪科をせしめしめ
 は悔悟すべく、人民は謠言に驚かされず
 其業に安んぜよと稱せり

回市債募集を發表せり、市債金額は五十
 萬兩にして利子年五半償還期限は二十
 年以上五十年以内にして工部局が自由に
 決定すべく又償還金額も工部局が自由に
 由に決定すべしと、申込期限は来る十六
 日正午を以て締切る答
 ●民國の豫算概各 正式議會に提出
 せらるべき民國二年度預算案は年初以
 來財政部にて編製中なりしが、目下略完
 成せる趣なり今左に其の大意を示せば
 (甲) 收入 三億萬兩内譯左の如し ▲地租
 四千萬兩 ▲鹽稅四千萬兩 ▲各項稅二千六
 百二十萬兩 ▲釐金四千四百二十萬兩 ▲國家營
 業收入四千三百三十萬兩 ▲各種項收入三千
 五百七十萬兩 ▲國產賣價九百四十萬兩
 (乙) 支出 三億三千三百萬兩内譯左の如
 し ▲中央行政費二千六百三十萬兩 ▲外交費
 四百萬兩 ▲警察費二千二百五十萬兩 ▲財政整理
 費二千五百二十萬兩 ▲國債清理費五千六百
 十萬兩 ▲交通費五千六百八十萬兩 ▲公家工作
 費一千九百五十萬兩 ▲司法費六百九十萬兩
 各項雜用一千七百七十五萬兩
 にて歲入の不足額は實に三千三百萬兩な
 り最も右は賠償金、借款の利息及び軍費
 等は計上せざるものなる由

●支那承認の列國 ブラジル
 政府は已に中華民國を承認せりとの事也
 即ち東京駐紮ブラジル公使ペレラ氏は東
 京駐紮支那公使汪大燮氏に中華民國の承
 認公文を交付し汪氏は四月八日即ち支那
 國會議院當日之を支那政府に提出せり
 いふ、又ペレラ氏及秘露の兩國政府も同
 じく中華民國を承認せし由也、此他葡荷
 牙及メキシコの兩國も近々承認を致さ
 んとするもの、如く、米國は四月八日の
 國會成立と共に承認をなすべしと傳へら
 れたるも實は正式政府成立を俟つて承認
 せんとするもの、如く、其他の列國は諸
 國を待たず徐ろに支那内政の充實
 を俟たんとする形勢也

●關根侍從の溯江 第三艦隊
 御恩問使として差遣されたる侍從武官關
 根海軍少將は去る六日前旗艦對馬に赴
 き長き遼りの特旨を傳へられたるが其後
 上流整備の任に在る各艦恩問の爲め翌七

●上海市債募集 上海工部局は今

日出帆の日清海船大貞丸にて長井參謀青
 木海軍屬及び従者を從へ溯江される一行は
 再び練習艦隊の來瀨 樫内少將
 の率ゝる練習艦隊吾妻宗谷の二艦は海軍
 少尉候補生百四十二名乗込み南洋各地巡
 航中なりしが、去る十一日午後楊子江口
 に着せるも濃霧の爲め入港する事能はず
 翌十二日吳淞に到着初司令官は吾妻艦
 長大佐岩村團次郎氏宗谷艦長大佐堀内三
 郎氏及び參謀諸僚を隨へ同日宗谷艦にて
 當港に上泊し陸したり尙宗谷艦は十五日
 吳淞に向ひ十六日吳淞拔錨橫須賀軍港に
 歸航する筈なり

●第三艦隊の新編入艦 通報艦
 龍田は今回第三艦隊に編入され去る九日
 來瀨したり尙舊第三艦隊旗艦たりし新高
 は新に第三艦隊に編入され來る十五日頃
 來瀨すべしと

●故宋氏の追悼大會 國民黨の發
 起に係る故宋教仁氏の追悼大會は昨十三
 日張園にて舉行せられたり當日は午前祭
 奠を行ひ祭文の宣讀奏樂等あり午後は孫
 逸仙氏黃興氏及其他名士の宋追悼演說等
 あり故人生前の功蹟を頌し盛會なり
 ●上海商業學校の開校 當地基督青年
 會の主唱に成る上海商業學校は去る十日
 午後八時崑山路同會に於て開校式を舉行
 したり

●露都より 寸閑生
 前呈今般愈週報「上海」御發行相成候趣
 奉大賀儀、小生にも當方面の事情通信せ
 よとの御申越、敬承敢承、拙者當國の通
 りの筆の中程、殊に鈍骨の拙者、當國の如
 き不可思議千萬或の意味に於て不可解な
 ること再城に讓らぬ國の觀察は、トチモ
 六ツ敷く候何條か中止むべき、凡筆
 を呵し隨時紙筆龍の中よりおかしき事
 擧ぎ集め繼ぎ合はせて御送附申すべく候
 存立ててごテアアの水のさけもすれ
 ルスの都の是もチチエホー
 と駄洒落的狂歌を送り候處、露都にて「ニ

●各地通信
 高蹈隱逃の概ありし舜水先生と雖も決して
 世事に志なかりしに基らずして實は成
 止べからざるを知りしにあらざるものにして
 止を得ざる苦衷の跡は今より之を想像す
 るに難らず何とされば先生壯年にして儒
 學生員に列したるは斷乎して試に應ず
 ず人之を勸むるも聽かず母に妻子に對し
 て語つて曰く我若し試に應じて第一進士
 とならんか一縣の令となる事を得て初年
 には必ず少法者を捕へて之を罰し二年に
 して不法者少なからし三年にして百姓
 必ず徳を誦し上官も亦其譽を聞いて必ず
 科道に進む事を得べきも此より直言を以
 て大罪を得て身家を保つ能はざるは必
 り是自ら揣るに淺漫激烈にして隱忍含糾
 なる能はざるを以て志を任途に絶つのみ
 には壯年時代に於ける先生の速既に此
 に依りて察するに先生の東向の既に其全
 幅を治國平天下に存したるや論なきなり
 故に御黨内の疑難紛糾も多くは先生の
 一語に依りて之を決せられたる事屢々なり
 と云ふ

先生始め葉氏を娶る先に歿す繼妻陳氏克
 貧に先生の意を體し姑に事へて孝を盡し
 貧に安んじたりと云ふ年四十にして彌々
 彼の學子の業を(試験に應ずるを云ふ)棄
 て田園に退耕せんことも父老兄弟先生
 の器度大に用ゆべきものあるを惜みに許
 さす是に於てか大比の年(受験の時を云
 ふ)に逢ふ毎に徒に游戲の文字を作りて
 之を詠じたり或は顯達を勸むるも恬然
 之を省みず是れ先生が壯年時代に於ける
 意思及風尚にして千歲に敬ぶたる清節
 も蓋し先生が壯年時代より養ひ來れるも

チエホー」たるは獨りチアアの水の解け
 ぬ計りては無しとシツペイ返しを喰ひ
 ギヤン閉息仕候、而し兄よ此露國の確
 かに恐るべき露國の將來は潜み居候、一
 ケ年に二百万人も堅氷の如き「ニチエホ
 一主義の人間が増殖し、而かもドシゴ
 西比利亞さては極東方面に發展するのだ
 と想へば、人を以て悚然ならしむるもの
 無きに非ず、吾元以て如何と爲す? 先
 は御返詞旁石まで(二月二十六日)

●餘姚より
 壯年時代の朱舜水(四)
 高蹈隱逃の概ありし舜水先生と雖も決して
 世事に志なかりしに基らずして實は成
 止べからざるを知りしにあらざるものにして
 止を得ざる苦衷の跡は今より之を想像す
 るに難らず何とされば先生壯年にして儒
 學生員に列したるは斷乎して試に應ず
 ず人之を勸むるも聽かず母に妻子に對し
 て語つて曰く我若し試に應じて第一進士
 とならんか一縣の令となる事を得て初年
 には必ず少法者を捕へて之を罰し二年に
 して不法者少なからし三年にして百姓
 必ず徳を誦し上官も亦其譽を聞いて必ず
 科道に進む事を得べきも此より直言を以
 て大罪を得て身家を保つ能はざるは必
 り是自ら揣るに淺漫激烈にして隱忍含糾
 なる能はざるを以て志を任途に絶つのみ
 には壯年時代に於ける先生の速既に此
 に依りて察するに先生の東向の既に其全
 幅を治國平天下に存したるや論なきなり
 故に御黨内の疑難紛糾も多くは先生の
 一語に依りて之を決せられたる事屢々なり
 と云ふ

先生始め葉氏を娶る先に歿す繼妻陳氏克
 貧に先生の意を體し姑に事へて孝を盡し
 貧に安んじたりと云ふ年四十にして彌々
 彼の學子の業を(試験に應ずるを云ふ)棄
 て田園に退耕せんことも父老兄弟先生
 の器度大に用ゆべきものあるを惜みに許
 さす是に於てか大比の年(受験の時を云
 ふ)に逢ふ毎に徒に游戲の文字を作りて
 之を詠じたり或は顯達を勸むるも恬然
 之を省みず是れ先生が壯年時代に於ける
 意思及風尚にして千歲に敬ぶたる清節
 も蓋し先生が壯年時代より養ひ來れるも

先生始め葉氏を娶る先に歿す繼妻陳氏克
 貧に先生の意を體し姑に事へて孝を盡し
 貧に安んじたりと云ふ年四十にして彌々
 彼の學子の業を(試験に應ずるを云ふ)棄
 て田園に退耕せんことも父老兄弟先生
 の器度大に用ゆべきものあるを惜みに許
 さす是に於てか大比の年(受験の時を云
 ふ)に逢ふ毎に徒に游戲の文字を作りて
 之を詠じたり或は顯達を勸むるも恬然
 之を省みず是れ先生が壯年時代に於ける
 意思及風尚にして千歲に敬ぶたる清節
 も蓋し先生が壯年時代より養ひ來れるも

先生始め葉氏を娶る先に歿す繼妻陳氏克
 貧に先生の意を體し姑に事へて孝を盡し
 貧に安んじたりと云ふ年四十にして彌々
 彼の學子の業を(試験に應ずるを云ふ)棄
 て田園に退耕せんことも父老兄弟先生
 の器度大に用ゆべきものあるを惜みに許
 さす是に於てか大比の年(受験の時を云
 ふ)に逢ふ毎に徒に游戲の文字を作りて
 之を詠じたり或は顯達を勸むるも恬然
 之を省みず是れ先生が壯年時代に於ける
 意思及風尚にして千歲に敬ぶたる清節
 も蓋し先生が壯年時代より養ひ來れるも

先生始め葉氏を娶る先に歿す繼妻陳氏克
 貧に先生の意を體し姑に事へて孝を盡し
 貧に安んじたりと云ふ年四十にして彌々
 彼の學子の業を(試験に應ずるを云ふ)棄
 て田園に退耕せんことも父老兄弟先生
 の器度大に用ゆべきものあるを惜みに許
 さす是に於てか大比の年(受験の時を云
 ふ)に逢ふ毎に徒に游戲の文字を作りて
 之を詠じたり或は顯達を勸むるも恬然
 之を省みず是れ先生が壯年時代に於ける
 意思及風尚にして千歲に敬ぶたる清節
 も蓋し先生が壯年時代より養ひ來れるも

命に應じ申候
 其他各種の御催しに必要なる酒場の御用
 式會見
 △園遊会
 △遠足
 △遊花園
 △或は

白鶴摸擬店部
 白鶴摸擬店部御申付に關しては御一報次
 第參上御用承はる可候
 上海虹口蓬
 路第壹號
 山口商店
 (電話二四五九)



白鶴摸擬店部
 白鶴摸擬店部御申付に關しては御一報次
 第參上御用承はる可候
 上海虹口蓬
 路第壹號
 山口商店
 (電話二四五九)

して各銀行共放棄に苦しむの有様になり且つ支那政争の前途を見越し兼ね自然に輸出入共衝動き手扣への傾あり爲替金融市場共に頗る閑散を極めつゝあり、週中の各銀行手元左の如し

五日	三二、五五〇	三二、五九〇
六日	三二、五六〇	三二、六三〇
七日	三二、五九〇	三二、六九〇
八日	三二、〇三〇	三二、六九〇
九日	三三、一〇〇	三三、七七〇
十日	三三、一〇〇	三三、八二〇

各種商況

▲外國棉 週中の變動は極めて微弱なる状態にあり、即ち去る五日に於て七片に持續したるリバープール、スポットミッドラン物は九日に於ては六片九八に低落し又七八月物は六片六十の八電也、ベッガル市場は五片八分七を保合、埃及市況は前週に比し〇五方の低落を見せ十片を唱へ居れり、

紐育市況を見るに現物は十二仙六十、五片物十二仙二十一、十月物十一仙六十五を入電し、マンチエスター市況大體に於て手堅し、

▲支那綿 市況活氣を呈し居れり、相場は通州二十五兩六十、太倉二十五兩二十、四チヨツプ物二十四兩、上機織線二十四兩四十、寧波二十二兩四十、北市種棉十三弗、同南市十二弗五十を唱ふ

▲日本綿絲 市況良好にして週中の取引高二千三百俵に及ぶ、而して取引直段を見るに

本週	前週	比較
最高 二七、五〇	二七、〇〇	安
最低 二〇、〇〇	二〇、〇〇	安
最高 二二、五〇	二二、〇〇	安
最低 一六、七五	一六、七五	安

即ち前週に比し概して低落を示し居れり然れども日本内地相場は銀塊高を見越して相場引締り三品當百四十七圓二十錢、同中百四十五圓七十錢、同先百四十四圓八十錢の入電を見たり

▲印度綿絲 市況引續き閑散なるに拘らず一部の向輸入を繼續するを以てストックの高は著しく増加し來りたるが之に對して週中取引を見たる高は僅かに上海に於ける潰し用として二十俵を算せしのみ

▲支那綿絲 製するに從つて賣行を見るの好況を呈しあるも然かも這是舊約品の取引に過ぎず、尤も昨今新高談を見つゝありと雖も其以前に當り今少しく相場の引上を見るの必要あるべしと觀測せらる、小賣向の相場は尙多少の低落を示し、即ち十手九十四兩二匁五分乃至九十八兩七匁五分、十三手九十八兩七匁五分、乃至百〇七兩二匁五分、十四手百〇二兩五匁乃至百〇九兩七匁五分、十六手百〇四匁乃至百十二兩二匁五分を唱ふ

▲倫敦銅相場 本月十一日の入電によればG、M、B七十八磅十二志六片、電氣銅七十一磅十志にして此處一週間許きは落つきの委にあり前週と別に變りなく今後の見込不明なるも巴爾幹問題の落着を見るに至らば更に多少の昂騰を見るべし

▲石炭 日本各港貯炭拂底し殆んど賣物なき有様にて尙は運炭船も缺乏し屢船甚だ困難を極め或向の如きは唐津吳淞間一弗八十仙の高價を以て取極めたりとの情報あり大勢の向ふ所如何とする能はざるの情態也

▲砂糖 精糖は前報の如く大日本精糖が〇〇倉渡六兩三匁にて手合ありたる以後は大口の商談を見ず明治精糖が前同

値の〇〇沖值七圓六十五錢にて四千俵の手合を成したるに聞けり、此外一寸買氣も現れざるが如し、而して仲間相場に於ては爲替の好調を材料として幾分下押氣味なり

赤糖はマニラ糖新しく三万余俵の入荷ありて既に一万余俵の手合ありたり、爪哇糖當地市場六兩二匁見當り原糖は爪哇原糖保合先物九志十一片牛見當にてビート又同事なり

▲燐寸 前週と同様の相場を保合ひ荷動き甚だ活潑なり

▲榮糖 日本歐洲共に取引成立たす相場は二匁方安く四兩五分見當となれる

○有名貴藥 支路に第三〇號

○純良藥品

○綳帶材料

○化粧品類



廣光堂大藥房

▲棉實油 先物は支那内地向きとし賣行きを見込み高價を唱へ八兩四匁(先物)見當を唱へ居るを以て一寸取引成立し難き有様にあり

▲棉實粕 別に變化なく三元二十五仙見當の相場にあるも商内時々からず

▲落花生 歐洲には到底引合はざる状態にあり値段は前週と變化なきも幾

分の下落は免れざるべし

▲大豆 從來強材料たりし味爪行輸出も愈々來週より實行することに決したるを以て相場は漸く幾分の落付を示して二兩九匁四分(並物)を唱ひ大連物は少しく高く三兩一匁三四分見當にあり

▲小豆 弱氣配にて相場は二兩六匁乃至六匁五分見當、日本よりの注文は時々からず

▲海產物 ▲昆布 別に變化なく在荷は三万五千俵にして相場は三兩五匁見當にあり ▲鱈 漸次雨期に向ふ爲め市場引立たず前週より二三匁方下落し上物十四兩四五匁、中物十四兩見當にて時々々々商内なし ▲鹽鱈 鹽鱈共に時期を經過したれば取立と言ふべき變化なし

▲鰯 殆んど鮮に推されて相場は三兩見當に下落せり ▲鮪 外の鹽魚なき爲め鹽魚の市場は鮮魚占の姿にあり相場は三兩六匁七匁にて商内盛んに成立し居れり ▲海參 〇七十七兩、〇貝柱 〇三角、四十四兩、九六四十七八兩、丸小五十二三兩

▲時計 其後着荷豫期せし程ならず而して爲替下りしに似ず相場は保合小居り安物打十九兩五匁、並物打二十三兩五匁見當にあり

▲洋傘 品物の製造盛なるも過般支那商が直接大阪に於て仕入れたる爲め稍品不足の觀あり着荷は自然遲延すべし氣配は強く相場は現今打五兩見當を保合へり

▲夏帽 前週は天候すぐれざる爲め更らに買進未入荷に己に四五千箱に達し日本に於ては品皆無の有様にあるが前途氣迷の姿にあり

▲齒磨 引續き活氣を呈し居るが殊に近來支那人が從來の粗製品を捨て一般に品質良好なるものを好む傾を生じたるは注意すべき現象也、値印は保合更に變動なし

本紙掲載廣告の料金は行數の多少掲載期間の長短に依り特に御相談可致候間御用の方は端書又は電話にて御一報被下度候

土地撰定 家屋撰定 委託賣買 室內裝飾 和洋家具 競賣仲次

新谷洋行

北四路 電話(七三)

春申社

文路二二七日本堂轉交 週報上海 發行所

編輯兼發行人 上海魏子路二七五 電話二七三 佐原篤介

印刷 上海福州路二七六 蘆澤多美次

發行所 上海文路三〇三 春申社 電話三〇三

本紙定價(前金)

一月	銀四十仙	支	金十
三月	銀一百二十仙	支	同四十
半年	銀二百四十仙	支	同八十
一年	銀四百八十仙	支	同一百六十

振替口座 福岡四七〇五番 支那上海 春申社 佐原篤介

大正二年四月十三日

線通交捷最絡聯亞歐

◎急行列車ハ最新式ノ寢台車
一等車及食堂車ヲ聯結致居候

◎大連長春間急行列車

大連發 月、水曜日午後二時三十分 莫斯科行
土曜日 午後二時三十分 聖彼得堡行

長春着、火、木、日曜日午前六時

◎滿鮮直通(釜山長春間)急行列車

釜山發 日、火、金曜日午後九時二十分
安東發 月、水、土曜日午後三時三十分

長春着 火、木、日曜日午前六時

◎長春大連間急行列車

長春發 月、水、金曜日午前七時三十分
大連着 同 午後十時二十分

上り

◎滿鮮直通(長春釜山間)急行列車

長春發 月、水、金曜日午前七時三十分
奉天發 同 午後二時五十分
釜山着 火、木、土曜日午後八時

下り

◎大連發、水、土曜日及大連着、水、金曜日急行列車ハ上海航
路汽船へ接續致候

歐大	哈爾濱	二十四時間
亞連	莫斯利	十日間
間連	聖彼得堡	十日間
行	伯林	十一日間
倫巴	里迄	十二日間
敦	迄	十二日間

館旅道鐵

ルテホトマヤ

大連、旅順、奉天、長春ニアリ
設備完全 食物精選
大連市外星ヶ浦ニハ海岸はてるアリ

(YAMATO)號畧報電

路航海上連大

使用船

神戶丸 二八七七噸
西京丸 二九〇四噸

兩船共船内無線電信局アリ

大連發木、土曜日正午 上海着土、月曜日午前

上海發月、水曜日午前 大連着水、金曜日午前

上海大連共ニ棧橋繋留

速力十四海里 航海時間四十二時間

(MANSEN)號畧報電

炭順撫

大連、營口、天津、芝罘、

上海、香港、新嘉坡、彼南其他東洋諸港ニ於テ常

ニ潤澤ナル貯炭ノ準備アリ

社會式株道鐵洲滿南

(MANTETSU)號畧報電

上海吳淞開誠道直時開表
上海着 前七五 九〇五 二二五 後四四五 杭州 前八三 港冠
前九二 派車
後四四貨車着 後五三急行着
後六二開用着